

～男女共同参画社会の実現に向けて～

モア MORE

さって ひと ひと
幸手市女と男の情報紙
第8号 2003

モア(MORE)とは、より多く、よりすばらしいものにと、さらに女と男がより豊かに、と願いを込めて、この情報紙を命名しました。



題「押し花」 斉藤宏子さん（市内権現堂在住）

寄せなべ

冬の夕ご飯は寄せなべがいい
私は寄せなべが大好きだ
父も母も姉も寄せなべが大好きだ
肉やしいたげ、ねぎ、人参、しめじ
ごちやごちや入って
くつくつ煮えてる

寄せなべがでると
みんながニコニコする
湯気の周りにみんなの顔が集まる
みんなはやさしそうな目をしているが
はしと口を忙しく動かしている
見ていると笑ってしまう

私は寄せなべがでるとちがった意味で
うれしくなる
一つのを家族でいっしょに食べる
家族が一つになったよう

私の家族も寄せなべのように
よりそって生きているのだ
ずっと
一人一人がいい味を
出し続けられる
最高の家族でいたいな

長倉小学校

六年 猪狩 早紀

(平成十五年三月現在)

特集

なぜ、今、男女共同参画社会

国では、男女共同参画社会の実現は21世紀の我が国にとっての最重要課題として位置付け、「男女共同参画社会基本法」等、様々な法や制度の整備が進められています。

「男女共同参画社会」とはどのような社会でしょうか。

「男女共同参画社会」とは、男女の人権が尊重され、家庭、職場、地域等社会のあらゆる分野へ男女が対等に参画し、その個性と能力を十分発揮することができる社会をいいます。

男女共同参画基本法では「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定められています。

この法律は、男女共同参画社会を実現していくための基本理念を示した法律です。

憲法では男女平等がうたわれていますが、現実社会では男女間の不平等を感じたりすることもまだまだ多いようです。また、少子高齢化などの生活状況が変化していく中、男女が性別による固定的な役割分担にとらわれず、そ

の個性と能力が発揮できる社会づくりが必要となっています。

こうした新しい社会づくりのための5つの基本理念を掲げています。

- 1 男女の人権の尊重
- 2 社会における制度又は慣行についての配慮
- 3 政策等の立案及び決定への共同参画
- 4 家庭生活における活動と他の活動の両立
- 5 国際的協調

そして、国は、この基本理念に基づき、施策を総合的に策定し、地方公共団体も同様に男女共同参画社会づくりのための施策に取組み、地域特性をいかした施策を展開していきます。私たち国民は、職場、学校、地域、家庭などあらゆる社会で男女共同参画社会づくりに協力していくことがもたらわれています。

なぜ、今、「男女共同参画社会」の形成が必要なのでしょうか。

わが国では、日本国憲法に、個人の

尊重と法のもとに平等がうたわれて以来国連などの国際社会における取組と連動しつつ、男女平等に向け積極的な取組が図られ、法制度上の男女平等は概ね整ったといえます。

しかし、いまだに「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別による役割分担をあたり前とする意識は根強く残り、「男性優位の考え方」を変えなくてはなかなか難しい状況にあります。

また、21世紀を迎えた現在、女性のライフスタイルの変化やさらに急激な少子・高齢化の進展は、労働力人口の減少、現役世代の負担の増大など、将来のわが国の社会経済に広く影響を与えることが懸念されています。

このような状況の中、将来にわたって豊かで活力ある社会を築いていくためには、女性と男性が、互いに人権を尊重しつつ、社会のあらゆる分野へ対等なパートナーとして参画することが必要なのです。

目指せ!! ジェンダーフリー

「男は仕事、女は家庭」といった、「性別による役割」は、生まれたときから備っているものではなく、社会や文化が作りあげたものです。このように「社会的・文化的につくられた性差」をジェンダーと言います。

女だからという理由で女性が差別されたり、不利な扱いを受けて、持てる力を十分に発揮できないのでは、本当に平等な社会とは言えません。このような差別は長い歴史の中で培われてきたため、なかなか気づきにくいものです。

でも、これからは、女性も男性もジェンダーにとらわれずに、自分の能力や行動、生き方を広げることができ、社会をつくっていく必要があります。そのためには、家庭や職場や学校、メディアなど、毎日の生活や人間関係の中に何気なく当たり前と見過ごしている性差別的な意識や言動に、私たちがそれぞれの立場から敏感に気づき、見直すことが必要です。

固定的性別役割分担の解消



性別による役割分担 にこだわっていませんか

男女が性別にとらわれず、「自分らしく」生きるために個性を大切にしてみませんか。

男女で担う地域活動

実際に地域活動へ参加しているのは女性、しかしリーダーは男性がほとんど、男女ともに活動へ参画して地域を担っていきましょう。

男性も積極的に 育児に取り組みましょう。

新しい自分、子どもとの関係を発見しましょう。

リーダーは男性でなければ と思いませんか？

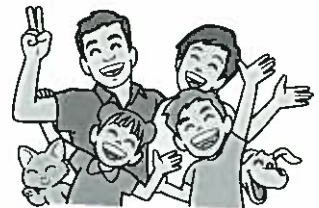
リーダーにふさわしい人であれば、女性でもリーダーになってもらい、協力していきましょう。



男女共同参画社会とは、男女の人権が尊重され、女性だから、男性だからといった性別にとらわれることなく、自分らしさを発揮でき、男女が喜びも責任も共に分かち合える社会のことです。

男女が平等な社会の実現に向けて、今、できることは何か考えてみましょう。

ご存知ですか？ 男女共同参画



対等なパートナーとして 共に支え合いながら仕事をしていきましょう。

一人ひとりがその個性と能力を十分発揮できる職場にしましょう。

あらゆる意思決定の場へ 女性も参画しましょう。

あらゆる分野に女性の意見を反映させるよう意思決定の場へ女性も参画しましょう。

家事・育児・介護 それって女性だけの仕事？

男女共同参画社会づくりには、男女が共に力をあわせて、家庭や家族のことを分担して、それぞれの仕事や地域活動をしていきましょう。

「私が私であるために」
女と男の共生セミナー

「共に生きよう21世紀社会」気づいて・変えて・輝いて」のテーマのもと平成14年10月24・31・11月7・14日市役所において、女と男の共生セミナーが開催されました。

日本女性会議参加報告後、自己開発学習コーディネーター(H・S・D・A代表)の金子朝子さんを、昨年に引き続きお迎えして「私が私であるために」をテーマに4回コースで行われました。

第1回「おとなの学びを考える」では、人間の脳神経細胞は60、40億ありその10%も使わずに終わってしまう、使われていない自分自身の脳神経(能力)を引出すのが「学び」であり「学



金子朝子さんによるセミナー

習」、自分の考え方がどうか?に気づくためには他者の中から自分を見つめる人間関係が大事と話され、参加者24人が4つのグループに分かれ印象ゲームを通して楽しく自己紹介し合いました。

第2回「いまの世の中、気になること」では、ジェンダー問題を取り上げ、「原始女性は太陽であった」と言われる母系社会から父系社会への流れ、明治から現代までの女性史をたどり、生活の中のジェンダーの「気になること」をブレインストーミングでグループ毎に出し、代表者が発表しました。

第3回「私の価値判断」では、人の行動はその人の価値観によって決まり、価値観は多様であるが自分が生きていく社会の中でプラスになる様に育て、コミュニケーションが良くなる様、他者の尊敬を傷つけてはならないと話されました。前回のブレインストーミングの集計結果を見ながら問題点を各グループで話し合い発表。もし生まれ変わったら?の課題に各々思いを巡らせ、自分への気づきを深めました。

第4回「私の未来設計」では、自分の長所や人間関係を見つめ、自分自身への気づきを通して未来をクレヨン等を使って描き、グループ内に発表。各々感想を描いた絵に書き込み、その後グループ外の人にも絵を見せながら積極的に自分の未来を伝えました。

何歳になっても、気づいた時がフレ

ッシュなスタート!自分自身の限りない可能性を人間関係の中で磨き育てて行く事の大切さを体験し、受講者ひと

宮川花子さんをお迎えして

男女共同参画推進講演会

平成14年8月31日、北公民館において、漫才「宮川大助・花子」でおなじみの、宮川花子さんを講師にお迎えして、男女共同参画推進講演会が開催されました。

当日は、大変暑い日にも関わらず、宮川花子さんの講演を待ち望んでいた大勢の方々が早くから訪れ、会場はすぐに満席となりました。



会場を爆笑の渦に巻き込んだ宮川花子さん

り一人が輝きを増した素晴らしいセミナーでした。
(注) ブレインストーミング
自由討論方式で多くの意見を出しあい、独創的なアイデアを引き出す集団思考法。

宮川さんは、昭和49年チャンバラリオに入門され漫才修業の後、昭和56年5月に現在のパートナーである大助さんとコンビを結成し、以来、寄席をはじめテレビ・ラジオ、舞台など幅広く活躍されています。そして、漫才コンクールでは、上方漫才大賞、日本放送演芸大賞、花王名人大賞など多数を受賞されています。

この講演会ではテーマを「愛をみつけた」と題し、宮川花子さんの生い立ちや、大助さんとの出会い、家庭でのこと、そしてご自身の闘病体験などをもとに、次から次へと飛び出すマシンガントークで、おもしろおかしく観客を爆笑の渦に巻き込みつつお話をいただきました。

参加者の感想(アンケートから)
・宮川さんは漫才師という職業をフルに生かし、輝いていました。男女共同参画を教えてくれた気がしました。

・漫才では見られない家族・夫妻の愛のつながりを聞かせていただき、大変有意義でした。

輝き「コーナー」

我が家の場合

今回ご登場いただく方は、上高野にお住まいの野本廣吉さん光子さんご夫妻です。

野本さんご夫妻は8人家族、ご自宅を米店を営まれている方です。そこでお店のことやご家族のことなどいろいろ伺いました。

「長いこと商売をしているといういろいろなことがあります。

若い頃は、こんなに良い商品なのになぜお客様は納得していただけないのかと思うこともありましたが、しかし、基本に立ち返れば、商売は人と人のふれあいの場、笑顔で、やさしく、気さくにお客様と接することが一番大切、そうすれば自然とお客様が店に来て頂けるようになり、長くお付き合いしていただけます。もちろん商品に対する研究やお客様の嗜好に 대응することに努力を惜しんではいけません。惜しめば商売に対する自信が無くなりその結果お客様に迷惑が掛かるからです。これは商売だけではなく、家庭生活でも同じこと、自分と同じくらいに相手を大切に思うこと。そうすれば、相手も自分をお互いの考えや思いを尊重すること、そうすれば、喜びも責任も共に分かち合える家族でいられると思います。」



野本廣吉さん・光子さんご夫妻

とご夫妻は笑顔でお話されました。今のご商売を共に築き上げてきたご夫妻そしてそのご家族のみなさん。これからのことをお聞きすると、

「前向きに考え、努力を惜しまず、そして何よりも心と心が通じ合えることのできる人間関係をこれからも更に築き上げていきたいと思っています。今は経営を息子夫妻にまかせていますが、それを見守りながら自分たちもまだまだ頑張っていきたいと思っています。また旅行を趣味にしていますが、まだ訪れないところはたくさんありますので、夫妻で共に楽しみたい」と楽しげに話しておだやかに語ってくれました。

日本女性会議参加報告

「私は私を大切に思うのと同じ重さであなたを大切に思う」



日本女性会議2002あおもりのシンボルマーク

男女共同参画社会の実現を目指して「日本女性会議2002あおもり」が平成14年10月4日、5日の2日間、青森県青森市で開催されました。

今回の会議のテーマは「私は私を大切に思うのと同じ重さであなたを大切に思う!!」。

10月14日(金) 秋晴れの夜空、羽田から東北地方を越えて本土最北端の青森へ、約1時間10分の空の旅でした。昼近く一行9名は、それぞれの分科会へ1名ずつ別れて向かい、翌日は、早朝に、A、B会場に分かれて歓迎セレモニー、全体会、記念講演、息づく間もない程忙しいスケジュールですが、内容の豊富さに充実感を覚えました。分科会は、労働、高齢社会、農山漁村、政策決定への女性参画等10項目あり、後日参加者の皆さんと研修報告会を行いレポートを提出しました。

記念講演は「平等・平和・地球市民としての私たち」と題した幸淑玉

さんによる講演、有名な市川房枝さんの言葉「平等なくして平和なし、平和なくして平等なし」私たちは今一度この言葉の持つ重さを考えるときではないでしょうか!!に始まった素晴らしい記念講演、内容も充実していて、パンチの効いた迫力ある話しぶり、熱のこもった講演者の気迫に胸を熱くして聞き入りました。

日本女性会議に参加して勉強する度に女性の地位向上に先人たちが大変な苦勞をされた事を知り、有難く思います。これからの男女共同参画社会の実現に向けての課題は多いですが、これからはがんばりたいと思いました。

表紙の写真



音藤宏子さんは、現在、ご夫妻で表具店を営まれておられます。音藤さんは藤季会(池尻藤子先生)に所属され、押し花を始めて6年になります。今回ご紹介させていただいた作品は作成に約3ヶ月、20種類以上の花を使い、幾重にも重ね合わせて作成されました。



ある時、「いつも心おだやかに、毎日の暮らしを大切に、ていねいに」という言葉を耳にした私は、はて、自分の日常はどうだろうかと考え込んでしまいました。

「いつも心おだやかだろうか、キラリ輝くものはあるだろうか」人それぞれに大切なものは違うでしょうが、あわただしい日々の中で何か大事なものを忘れてしまっているような気がする時があります。

いつもより冬の訪れを早く感じたある日、久しく忘れかけていたなつかしい歌を聴く機会がありました。それは小学校の時習った童謡や、叙情歌でした。

姉妹の美しい歌声にすっかり魅了されてしまいました。

「あく、この歌は幼い頃、兄弟でいつも唄っていた歌だっけ」また、この歌は合唱コンクールでとなりの町の小学校で唄った歌、薄暗くなる迄練習した音楽室、あの頃の友の顔と一時、タイムスリップした私の心に温かいものが込み上げてきました。

当時何となく口ずさんでいた歌も、今あらためてこうして聞いてみると、

何と良い歌詞、良いメロディーなのでしよう。

「赤いくつ、浜千鳥」次々に流れるなつかしいメロディーが過ぎ去った思い出を呼びおこし、歌の持つ不思議な魅力に心はすっかり癒され、まさに至福の時でした。

感動いっぱいのは私は、童謡、叙情詩のCDを求めやさしさを忘れそうな時に聞いています。

子ども達は歌が大好き、学校の音楽では、どんな歌を唄っているのでしょうか。

掛け替えのない大切な時期に良い思い出に残るような歌をたくさん唄って欲しいと思います。

用語の知識

隠れたカリキュラム

固定的な男女の役割意識を、学校での生活や教育の中で無意識に子どもたちに伝達していることをいいます。

具体的には、教科書の教材選択、記述、イラストなどを通して描かれる固定的な女性像・男性像、学習活動の場面での教師の考え方や何気ない言葉、動作、学校行事における男女の役割、また男子優先の男女別名簿などがあげられます。表面に表れず、見えにくいだけかなりの影響を子どもたちに与

えているものと考えられます。

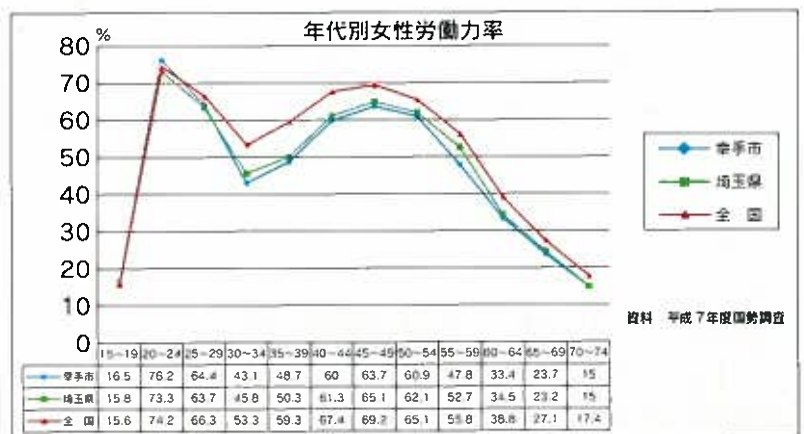
M字型曲線

年齢別に見た日本の女子就業率が示す特有のパターンをいいます下図(年代別女性労働力率を参照) 20歳代前半までは就業率は高く、25〜35歳の年齢層では低下します。これは結婚、出産、育児期にあたるこの時期に多くの女性が退職することを意味しています。子育てが一段落した40歳代で再び就業しそして老年期に向かい下降します。これをグラフ化するとM字型を描くのでこのようにいわれています。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

1994年カイロで開催された国際人口・開発会議において提唱された概念。リプロダクティブ・ヘルスはライフサイクルを通じて個人、特に女性の健康の自己決定権を保障する考え方でリプロダクティブ・ライツの中心的課題には、いつ何人子どもを産むか産まないか選ぶ自由、安全で満足のいく性関係、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことが含まれます。

また、これらに関連して、思春期や更年期における健康上の問題、不妊、安全な避妊・性感染症の予防、患者の人権を尊重した治療のあり方など、生涯を通じて生殖に関する課題が幅広く議論されています。



● 編集 ● 後 ● 記 ●

一人ひとりが自分らしく前向きに生きることができると、男女共同参画社会ってほんとに素晴らしいと感じています。しかし、男女共同参画社会実現のためには、残された課題を一つ一つ解消していかなければなりません。

まずは、私自身、今更ですり込まれていた意識や社会習慣を見直していきたいと思っています。